

# MAKOTO

YOUNG BUDDHIST ASSOCIATION MAGAZINE

<http://yba.hongwanji.or.jp/>

no.148



新たなはじまり  
はじまりはたくさん  
あなたの前にも  
ほらたくさん  
まだ僕らは  
みつけていないだけ  
もしかしたら  
今、始まるかもしれない

目次

- 04. 「はじまる」
- 06. 帰敬式というはじまり
- 08. 連盟中央委員長あいさつ
- 09. 日々感謝、気づきとはじまり
- 12. 全国真宗青年の集い四国大会
- 14. 彼國の便り
- 15. 編集後記



## 「はじまる」

それは、「不安」と「期待」のはじまりでした。

平成24年4月10日に、本願寺仙台別院から「仏教青年連盟の中央委員になってほしい」との依頼がありました。

今の自分に「仏教青年連盟の中央委員」をやる能力と時間はあるのだろうかというのを考えました。自分のお寺に仏教も結成してないのに仏教の活動ができるのか、自分の能力以上のことをするのだろうか、お寺の行事に支障が出ないだろうか、考えましたが、「まあいいや、何とかなるだろう」とひき受けることにしました。

中央委員になるということ、何か新しいことをはじめるということとは、「不安」と「期待」が入り交じります。例えば、学校で新入生になる、新入社員として働く、結婚して夫婦になる、子どもが生まれて親になる、など。

何も自分から進んで新しいことをはじめるなくても時間の経過や環境の変化により、日々新しいことは、はじまります。



昨年の日本の状況を思い出して下さい。  
3月11日に東日本大震災が起こり、岩手  
県、宮城県、福島県の三県を含む東日本  
は、甚大な被害を受けました。一瞬で多  
くのいのちが失われました。

私が住んでいる福島県は原発事故が起  
こり、一年たった今なお、家族が離れば  
なれの避難生活を続け、苦しみの中に生  
きている人が大勢います。

「復興」という言葉も新たななはじまり  
の一つになるでしょう。

『まこと』を読んでいる皆さんが、今  
後お寺で仏育の活動をしていく、何か新  
しいことをはじめることは「不安」と「期  
待」の連続かもしれません。しかし、そ  
の「不安」と「期待」を支えあう仲間が  
いることを実感し「楽しみ」と「よろこ  
び」に変えていくことも大切なことでは  
ないかと思えます。

ともに仏育の活動を盛り上げていきま  
しょう。

文・海野 康成



成人式での帰敬式の様子

## ききようしき 帰敬式というはじまり

お葬式、ご法事、お寺にお参りした時、私たちは日々折々に、なんまんだぶ… なんまんだぶつ…と、お念仏申します。お仏壇、ご本尊の前に限らず、

いつでもどこでも、お念仏を称える方もいらっしやいます。

ところで、あなたは一番最初に称えたお念仏がいつだったか覚えていますか？

様々な機会で称えているお念仏。

はじまりは一体どのような機会だったのでしょうか？

私たちそれぞれに、最初のきっかけがあったはず。

私にとってのお念仏のはじまり。

それがいつのことだったのか、何がきっかけだったのか  
思いを巡らせてみてください…

いつの頃からか、お寺やお仏壇の阿弥陀さまに手を合わせ  
お念仏申すようになっていた、という思い出です。

おかみそり（帰敬式）を受けた時に、親鸞聖人の御前で  
申したお念仏は忘れることができません。

お念仏を私たちへお伝えくださった親鸞聖人が  
ナンマンダブのお仲間たちだと

私を迎えてくださっているようでした。

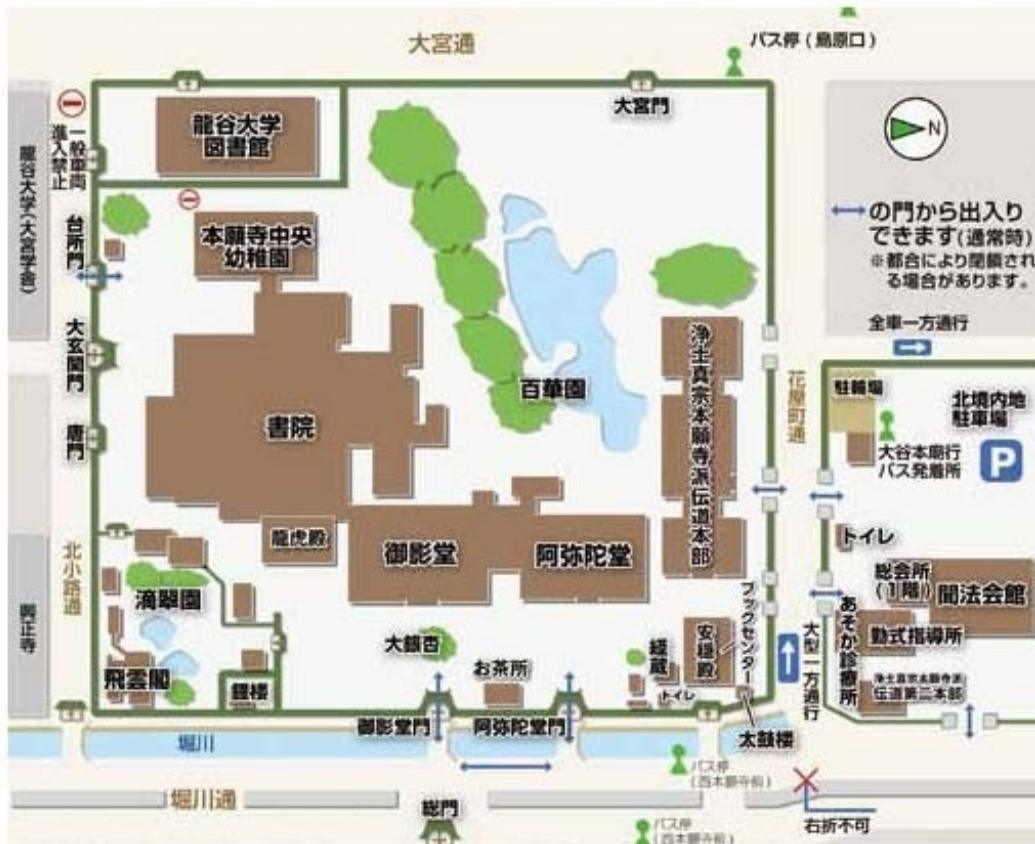
本願寺には帰敬式(おかみそり)という儀式があります。阿弥陀さま、親鸞聖人の御前で、「三帰依文(※1)をお唱えし、おかみそりを受ける儀式です。南無阿弥陀仏のおいわれを、わたくしたちにあきらかにしそくださった親鸞聖人の御前で、浄土真宗の門徒としてお念仏申す生活を始めることを誓う大切な儀式です。とても願がで、素敵な式です。

帰敬式は朝6時のお晨朝(本願寺の朝のお勤め)後とお昼1時半からの1日2回執り行われます(※2)。式は正座で受けますが、正座が困難な方にはイスが用意してあります。「受式買加金」「帰敬式受式願」が必要となります。申込は帰敬式の1時間前までに本願寺の正面の門を入れて、御影堂に向かって左の龍虎殿(参拝教化部)での受付となります。帰敬式受式願は本願寺ホームページからも印刷してご利用いただけます。

※1 「南無帰依仏 南無帰依法 南無帰依僧」です。「仏」とは、私達を導いて下さるほとけさまです。「法」とは、み教えです。「僧」とは、み教えに生きる人々で、この三宝を敬うことを誓う御文です。

※2 法要がお勤まりになる日は、1時から執り行われます。また、帰敬式が行われない日もありますので、事前に本願寺に連絡し、日取りを確認してください。

文・野口 古城



# 中央委員長



# 濱本信太郎

この度、中央委員長に新任致しました、安芸の濱本信太郎です。昨年は親鸞聖人750回大遠忌法要が行われ、各地で様々な行事が行われました。仏教でも法要に向けて10か年計画を目標として起ち上げ、実行してきました。法要までの10年間、皆さんはいかがお過ごしになられたでしょうか？法要を終え、これから仏教は次の目標に向けて進まなければなりません。皆さんは何か目標を持たれていますか？

仏教の無常観を表したことで有名な兼好法師の『方丈記』の文中に「あした；朝にだれかが死んだとしても、夕べには生まれてくるものがある。人の世は無常である。」とあります。人生はどのくらいの時間があるかわかりません。大切なのは、毎日その日の目標を持って生きることだと思います。

私たち仏教は、これからの真宗や社会を支え、貢献していくために何ができるのかを考え、目標として行きます。阿彌陀さまに見護られていることに感謝しながら、身近な目標を毎日立て、一日を無駄にしないように過ごして行きましょう。





日々感謝、  
気づきとはじまり……



今作MAKOTOのテーマ『はじまる』。私自身21歳になり、いろいろ始まったことがあります。そのなかでも一番心に残っているのは私の母親から学んだ事です。

少し母親を紹介します。今年44歳で、体型すくすくよか、身長低め、顔は角野早苗さんみたいな母親です。とても賑やかでムードメーカーです。私の家族は、麻しい父親、母親、祖父、祖母、弟2人、私の7人家族で母親は朝から晩まで7人分の家事を行いながら、パートにも勤務しています。私はそんな母親を大変そうだなあと見ていました。

ある日、母親は夕ご飯の洗いものを終えようと、勉強している三男坊拓海(中2)の勉強を教えています。勉強は順調に進んでいると思いきや、拓海は問題がわからなくなると「イヤイヤ」、その矛先を母親に向けて、教えてもらっているにも関わらず「うるさいわ、あつちいけ」と追い返していました。それでも母親は問題が理解できないう拓海を心配し、また教えるに行くことを繰り返していました。

そういう私は私自身も弟と同じ煩、同じことをしていたなと悔かしくなっていました。当時の私も追い返してしまうのですが、また教えて来てくれる母親に安心感を感じていた気がします。私の父親はとても麻しかったので、父親には全く反抗できます、可立ちをストレスは全て母親に押しつけて、随分理不尽なことを受けて止めてもらっていました。叩いてしまってもよくありませんでした。それでも母親は私のそばに居てくわめて、私がいじめに遭った時も相談に乗ってくれました。「情を張ったんでくれただけでも覚えていきます。そんな自分を思い出してらると、母親に対して

ほんとは申し訳なく買って来ました。しかも、そんな状況を私と弟たち  
合わせて3人分も動いてくれている。それなのに私は感謝の気持ちも伝  
えられず、それどころか未だに反抗してしまっことを駄目だなぁと感じ  
て悔んでいます。

何日か経ち、友達とショッピングモールへ買い物に行きました。ちよ  
うど5月初旬で母の日が近かったので何か買って行くかなぁと悩んで、  
2000円のネックレスを買ったことを知りました。前回はだいたい1000円して  
も高い、偉い。その日の夜寝すことを知りました。しかし、寝ようとする  
と、ついつい形がかわくをり、感謝の言葉すら伝えることが出来ません  
でした。「これをあげるの一言のみで、ただ頂す事しか出来ませんでし  
た。それなのに母親は、頂いた感謝の涙を偉かへへ、業績がどうのどうも事  
んでくれました。」おののかがどう、おののかがどう、おののかがどうと事  
てくれました。■半の私でも初めて見るような業績でしたので、とても  
印象に残っています。2000円のネックレスでこれをどうも書んでくれ  
る母親を見ていると、嬉しくなり、なぜかホッと安心しました。

いつも迷惑ばかりかかけて、感謝の言葉も言われていないのにも関わらず、そ  
れでも母親は私に対してはたまたまかかけてくれる。2000円のものさ  
送っただけでは到底約の合言葉をいじりてもらっているのだ、私に見返  
りを求めずにはたまたまかかけてくれる。いつも自分勝手に気持ちが行  
行して母親が先で物事を考えるのが少ないのに、私を捨てずに大切に  
構ってくれている。それを母親だから感動し、本物の感謝の心がはじ  
き出したのだと実感しました。

文・巖根 眞弥





# 全国真宗青年の集い 四国大会に参加して

文・上高原 直樹

ずっとつながっていた  
そして これからも

2012 全国真宗青年の集い  
四国大会  
7月28日(土)～29日(日)  
会場 香川県立体育館

スペシャルゲストトークセッション

大島 謙 大島 謙 大島 謙	上原 直樹 上原 直樹 上原 直樹	上原 直樹 上原 直樹 上原 直樹	上原 直樹 上原 直樹 上原 直樹

スペシャルライブ

上原 直樹 上原 直樹	上原 直樹 上原 直樹

2012 全国真宗青年の集い  
四国大会

日時 / 平成24年7月28日(土)  
受付・開場 11時30分  
開演 12時30分

会場 / 丸亀市民会館大ホール

ずっとつながっていた  
そして これからも

MAKOTO 12



7月28日から29日にかけて、うどん県骨付烏市(香川県丸亀市)にて「全国真宗青年の集い 四国大会 in香川」が開催されました。私は今回全国大会に初参加ということと、香川県へ初上陸ということで、前々から非常に楽しみにしていました。

会場の丸亀市民会館に着いて最初に感じたことは、私の地元鹿児島よりも「とにかく暑い」ということでした。しかしその暑い中、スタッフのみなさんはもっと熱く、一生懸命参加者の誘導やお出迎えをしてくれちゃって、私も「よし、今回の大会で何かつかんで帰るぞ」という気持ちになりました。

そして、待ちに待った大会が始まりました。開会式を経てのトークセッション。4人の先生方による「絆〜現代社会と仏教〜」というテーマのディスカッションは、今自分が仏教として社会に対して何ができるか、どう考えていけばいいかを考えさせられました。その後は、三浦明利さん、ふくい舞さんによる素敵な音楽ライブが行われ会場もとても盛り上がりました。その後、ホテルの方に移動し懇親会をかねた夕食会があり各地区の仏教の会員の方々と交流をしました。

そして、2日目、朝から昨日のトークセッションをもとに、各グループに分かれてグループディスカッションを行いました。いくつかのテーマの中、私たちの班は、「いじめ」について話し合いました。「いじめ」というのは子どもと大人の間では大きく違うもので、特に子どものいじめについては、家庭でなかなかコミュニケーションがとれなかったりする子どもに多いのではないかという話になりました。そして、仏教として子ども会などで、話を聞いたり、親御さんとお話をしたりすることが、解決に向かうのではないかということになりました。こうやって、仏教活動に参加していて、参加しているだけでなく、どのように社会的に貢献できるかをつかむことができました。

私が初めて参加した全国大会はあっという間に終わりました。スタッフの皆さんや、参加者のそれぞれの思いが伝わる、とても濃い内容の大会だったと思います。

# 彼國の便り

ひこく

たよ

昨年一昨年と続けて三人の親を亡くした。日頃から諸行無常とお聞かせいただいているが、謹慎では色々な思いが込み上げてきて、お勤めの声がかかる。浄土真宗のお勤めのときに読む聖典には、私を救わんとしてはたらく、阿弥陀如来のご苦勞が書かれている。

計り知れない縁起の中で生まれてきた私の事を、かけがえない命として慈しんでくださること。私を救うためにとてつもない長い間思惟され、身を削るような修行をされたこと。すべての生きとし生けるもの(衆生)が浄土に生まれ仏にならなければ、自分も決して仏にはならないと誓われたこと、などなど。そんな阿弥陀如来のことを、先人たちは「親さま」と伝えてくれている。

阿弥陀如来のご苦勞と自分の親たちの姿が重なり、合わさずめ手が合わさり、下からめ頭が下がっていく。私を育てるその陰でどれほどの苦勞があったのか、今までちゃんと考えたことがあるだろうか。親たちの思いも考えず、悲しませ笑顔を奪って生きてきたのではないか。どれだけ親に涙を流させたのだろうか。

そんなことを考えていると「ややこしいこと考えんと、ここに座ってお茶でもお飲み」という親たちのやさしい声が聞こえてくる。苦勞を苦勞と「思わぬ親心。子の思いより常に先手である。私の心に響いてきてくれる親たちはいつも笑顔だ。

文・萩 隆宣 (仏教育年連盟指導講師)

今回から広報の委員長になりました。自分としてはもっともっているんな人に興味を持ってもらえるMAKOTOにしたいと考えているので、これからもみなさんは非せひ手にとって読んでみてください。仏青にしかできない、考えられない、作れないもの。自分たちの色をもったMAKOTOをこれからも応援よろしくお願いします。

上高原 直樹

今回のテーマは「はじまる」。何もかもが初めてのことで大きな仕事をさせていただき、貴重な経験になりました。やはり文章を書くことって難しいです。でも、最近の自分はマイペースな生活をしていたので、まことの制作にたずさわられて「のん気な状態」から抜け出せた気がします。これを機会に、自分も何か新しいことをはじめられるきっかけになれば、嬉しいですよ。

海野 康成

テーマは「はじまる」ということで、私は当初、東日本大震災の記事を書くつもりだったのですが、ポラテイアに行けなくなって断念。そこで自分の「はじまる」を考えたのですが、普段全く考えないことなので、「最初」「どうするよ」という感じでした。でもよく考えると、とてもいろんな事が始まっていたんだ。とビックリ。「人ほーっとする時間もいろんなご縁を気付かせてくれる、貴重な時間だと実感しました。

巖根 真弥

出雲市での一人暮らしを始めて今年の夏で四年が経ちました。

昨年十一月までは、アパートを借りて住んでいたのですが、今は一軒家で悠々自適な生活を送っています。回りは田んぼしかないのも、とてもどかな環境です。休みの日には、近くの湖を眺めながら、温泉に入ったりカフェでコーヒーを飲んでのんびりするのを楽しみの一つになっています。

田中 慎也

はじまり…… この度のテーマは「はじまる」でした。常に様々な事が終わり、そして始まりが続いています。「新たな始まり」をむかえるにあたり、きつとそこにあった、「古の終わり」には「おつかれさま、ありがとうね」として、「新たな始まり」には「こんにちは、よろしくね」と申したいものです……。あっ！最近、漫画『エヴァンゲリオン』を読みはじめました。……おわり

野口 哲城

## 編 | 集 | 後 | 記



YBA WEB SITE

MAKOTO no.148

浄土真宗本願寺派 仏教青年連盟印刷部 2012年12月31日発行 印刷：創文堂印刷株式会社  
編集/発行：仏教青年連盟 広報委員会 〒600-8501 京都市下京区堀川蓮花町下川 浄土真宗本願寺派 宗教所内 TEL：075-371-5181(代)



お念珠をいつもそばに。

## 腕輪念珠 & お念珠型ストラップ

☆ 腕輪念珠：200円

☆ 念珠型ストラップ：500円

お問い合わせ：浄土真宗本願寺派 仏教青年連盟  
TEL：075-371-5181(代) yba@hongwanji.or.jp



## makoto No.148

<http://p.booklog.jp/book/64407>

著者 : bussei

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/bussei/profile>

ホームページ : <http://yba.hongwanji.or.jp/>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/64407>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/64407>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブックログ